

部局名	安全環境部	所属名	環境保全課 環境政策室	所属長名	谷口 路代	電 話	483-1151 内線3211
-----	-------	-----	-------------	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード		4229		事務事業名称		生物多様性保全事業					短縮コード		経常	4229	臨時	4230	
予算区分		会計	01	一般会計		款	04	衛生費		項	01	保健衛生費		目	04	公害対策費	
区 分		☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		環境基本法，環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律，八千代市環境基本条例，生物多様性基本法，地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律									
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）																	
○ほたるの里づくり事業→平成5年の環境基本法の制定に伴い、自然環境の保全等広範囲な環境問題に取り組む諸施策が打ち出された。また、市民からも自然保護や自然とのふれあいに対するニーズが高まっていた。 ○環境学習の支援→市民・事業者からの講演依頼、地球的規模の環境問題の深刻化、環境問題への関心の高まり、「まちづくりふれあい講座」の開始、小中学校での「総合学習」における環境学習の実施。 ○谷津・里山保全事業→第3次総合計画後期基本計画に位置づけられ開始。																	
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測						総合計画の施策体系	6本の柱（章）		03	第3章環境共生都市をめざして							
○平成23年6月に「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が公布され、環境保全活動・環境教育の一層の推進が求められる。ほたるの里づくり事業及び環境学習支援事業のいずれもこれらの法律の趣旨に沿うものであり、今後重要度は更に増すものと考えられる。 ○平成19年に国は、「第3次生物多様性国家戦略」を策定し、この中で里地里山・田園地域保全の重要性を述べている。また、地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律は、地域における多様な主体が連携して行う生物多様性保全活動を促進することによって、豊かな生物多様性を保全することを目的として、平成22年12月に制定された。今後一層、地域における多様な主体の有機的な連携による谷津・里山保全、生物多様性保全のための取り組みを進めることが必要になると思われる。							大項目（節）		01	第1節環境との共生・保全							
							中 項 目		03	3. 生物多様性の保全							
							小項目（施策）		01	(1) 自然保護意識の普及・促進							
									02	(2) 自然環境の保全・再生							
							細 項 目		01	①自然環境学習の充実							
01	①谷津・里山保全計画の策定・推進																
						実施計画の計画事業		3034	谷津・里山保全事業								
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～			計画事業費		千円					

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	1 八千代市ほたるの里づくり事業→市民（世帯） 2 環境学習の支援→環境学習を希望する市民，事業者，学生，生徒，児童等 3 谷津・里山保全事業→谷津・里山を所有する者，市民，事業者及び谷津・里山そのもの
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成24年度に実際に行ったこと： 1 ほたるの里の維持管理、整備、生き物管理、学習会、会報発行他 2 昆虫展、昆虫観察会など環境学習の実施 3 環境学習の支援 4 谷津・里山保全事業 講演会、自然観察会、作品展の実施、谷津・里山保全計画アクションプランの推進 ※平成25年度に計画していること： 1 ほたるの里の維持管理、整備、生き物管理、学習会、会報発行他 2 昆虫展、昆虫観察会など環境学習の実施 3 環境学習の支援 4 谷津・里山保全事業 講演会、自然観察会、作品展の実施、谷津・里山保全計画の推進
意図 （何を狙っているのか）	1 八千代市ほたるの里づくり事業→ホテルの保全を通じ、自然保護意識の高揚と市民主体的活動を支援する。 2 環境学習の支援→市民・事業者等が環境問題に対する理解を深める。 3 谷津・里山保全事業→谷津・里山、生物多様性の保全を推進する。
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外

区 分			単位	23年度	24年度		25年度
				実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	世帯	世帯	81,145	85,800	81,930	87,800
	指標2	環境学習を希望する市民，事業者，生徒	人	1,283	1,500	1,234	1,500
	指標3						
活動指標	指標1	ほたるの里の活動回数	回	20	20	18	20
	指標2	各種講座開催回数	回	38	35	47	45
	指標3						
成果指標	指標1	ホテルメイトの人数	人	138	200	139	150
	指標2	環境学習への参加人数	人	1,283	1,500	1,234	1,500
	指標3						
上位成果指標	指標1						
	指標2						
	指標3						

コード	4229	事務事業名称	生物多様性保全事業				所属名	環境保全課 環境政策室	
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。				☐ 改革・改善して継続		24年度に事業の組換を行った。大項目を「生物多様性の保全」とし、小項目を「自然保護意識の普及・促進」、「自然環境の保全・再生」とした。 「自然保護意識の普及・促進」としては、ボランティア講師制度の利用により環境学習を推進する。 「自然環境の保全・再生」としては、谷津・里山を保全するため、平成２２年度に「谷津・里山保全計画」を策定し、「谷津・里山保全計画アクションプラン（平成２３年度～平成２５年度）」を策定した。本計画を推進し、谷津・里山保全活動を多様な主体と協働で推進していく。また、ほたるの里づくり事業において、ホタルメイトへの参加を募り、市民との協働により管理・運営を行っていく。		
					☐ 手法プロセスの改革・改善				
					☐ 事業規模の拡大・縮小				
					☐ 統合・役割見直し				
	☐ その他								
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☒ 現状のまま継続									
今後の方向性	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			平成２２年度に谷津・里山保全計画を策定し終え、市民ボランティアによる保全活動を進めていくので、それほどの経費の増加はないと考えられる。		
				削 減	不 変	増 加			
		成 果	向 上	☐	☒	☐			
			不 変	☐	☐	☐			
			低 下	☐	☐	☐			

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
○ほたるの里づくり事業→ホテルだけでなく希少な生き物の生育場所として価値がある。自然を観察するうえでのルール の啓発をすること。また、第２，第３のほたるの里をつくって欲しいという要望がある。 ○環境学習の支援→様々な市民団体，事業所，小中学校児童生徒，学校から学習会への講師依頼や問い合わせがある。 ○谷津・里山保全事業→様々な市民団体や市議会から，保全の要望が出ている。									

所属長コメント	ほたるの里づくりや谷津・里山保全の活動は，行政，市民，活動団体，企業，地権者及び地元の方々と協働で取組んでいる。 里山整備についても担い手を育成するため，里山整備ボランティア育成講座（里山楽校）を実施し活動を開始している。 今後は，国が求めている生物多様性戦略策定も視野にいれながら，生き物調査や活動団体の育成等を推進していく。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課評価のとおり，現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☒ 現状のまま継続									